

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成25年3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690300183号
法人名	株式会社華響
事業所名	グループホーム華蓮
所在地	鹿児島県鹿屋市野里町3456-7番地 (電話) 0994-42-7223
自己評価作成日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の小学校との交流も活発であり、ボランティアで訪問して下さる方も多
い。本年より自社農園を利用した野菜作りにも取り組んでおり利用者と野菜の収
穫等行うなど楽しみをもって生活できるように支援していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿屋市郊外の住宅地に佇むホームは、近くはバラ園や四季折々の風景が楽しめる
静かな環境のなかにある。地域住民のニーズに応え、同法人系列のデイサービス
や有料老人ホームなどと隣接し、鹿屋市、消防団、自治会長などの協力体制が活
発であり、ホームを地域住民の一員としてとらえ、意見や情報の提供がある。
管理者はボランティア実績と、またボランティアの受け入れを頻繁にし、利用者
が地域の中で継続して暮らし続けられる支援であるように、地域の行事に参加し
たり、ホームでのイベントを開催している。
最近では近くに自社農園を作り利用者と収穫を楽しみ、地域で安心して暮らせる
ように回転灯の設置で防犯対策をするなど積極的である。
医療面も家族や利用者の希望するかかりつけ医の受診であり、緊急医療協力機関
もあり家族の安心が保たれている。
職員も明るく日々利用者に寄り添うケアであることに努め、アイデアを活かしな
がら接している様子が伺われる。
常に利用者が地域住民と接しながら活かされるように支援しているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	5つの理念を掲げ利用者が地域社会の一員として生活が送れるように支援している。共有できるようにホールの壁に掲示している。	理念は地域密着型サービスの意義を踏まえ、日々寄り添う介護であること、生活の中で理念が活かされているかを常に振り返りながら、自然と身に付く理念であるように、職員は共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事にも参加、近隣の小学校との交流も定期的に行っている。	自治会の会長をはじめ地域住民の協力があり、小学校の子ども達も頻繁に立ち寄る環境である。また外部のグループホームの情報や菜園の提供を受けたり、地域の運動会、入学・卒業式に参加するなど、ホームは日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	散歩の途中で立ち寄っていただいたり、家族の体調について相談を受けるなど協力支援を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況などについて報告を行い、地区の代表や民生委員の方々から意見をいただきながらサービスの向上に活かしている。	市の担当者、地区代表者、民生委員などの参加のもと定期的に運営推進会議を開催し、利用者の実情や取り組みの報告を話し合い、朝のミーティングで職員は情報を共有している。ハープ演奏会を兼ねた会議もあり、家族の参加呼びかけの機会を作ったり、会議の内容を便りで送ったりしている。	

鹿児 自己 評価	島 外部 評価	グループホーム華蓮		
		自己評価	外部評価	
項目		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に1回は運営推進者会議では、ホーム内の状況や確認をしてもらいメールや電話等でも密に連絡がとれる状況にある。</p>	<p>鹿屋市の高齢化が進んでいるため適正委員会が設けられ、緊急搬送や医療連携を取る協力体制ができている、ホームの実情やサービスの取組みも相談しやすく、担当者からの情報も積極的に入るなど連携を図っている。</p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>禁止の対象となる具体的な行為については、一人一人の職員に対してプリントが渡されている。評価についても毎月チェックされている。玄関の施錠については、18時30分以降は職員が一人になることや、外部からの侵入等に対して施錠されている。</p>	<p>管理者、全職員は指定基準における禁止の対象となる行為を正しく理解し、毎月の会議で身体拘束チェック表で確認しケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、落ち着かない利用者には事務所で話を聞いたり、電話で家族と話したり、時には家族にきてもらうなど、利用者の抱えている根本的な不安を取り除く支援となっている。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>新聞記事等の回覧を行い、現状については正しく理解しスタッフで意見交換を行いながら日々の介護にあたっている。</p>	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等で学ぶ機会はある。現在は家族と利用者を中心とした支援を行っており活用する状況にない。</p>	

鹿嶋 自己 評価	外部 評価	グループホーム華蓮		
		自己評価	外部評価	
項目		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に具体的な説明を行い納得していただいた上で文書の交付を行い入居していただいている。又、入居後も利用者の状況を伝え不安や疑問点について尋ねやすい雰囲気作りに努めている。</p>	
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月の病院受診や面会の際に利用者の状況を伝え意見や要望を聞かせていただきケアに生かしている。</p>	<p>面会時や家族受診の際に利用者、家族からは意見や要望がよく出され、管理者や職員は出された意見を話し合い運営に反映させている。言葉の出ない利用者は筆談で意思の疎通を図り、家族も会話ノートの利用でコミュニケーションが取れるようになった。、ホーム以外の第三者に意見、苦情を表す機会や場があることも明示している。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝、ミーティングを行っておりその際に改善点についても積極的な意見が聞かれている。</p>	<p>職員は管理者に意見や情報を話しやすい環境であり、職員の声に耳を傾け運営に反映させている。職員の得意分野を活かした作品がホームの至る所にあり、利用者を和ませている。管理者は資格取得にも理解があり、職員も質の向上に努めている。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の得意分野を生かし、各業務の担当を決めそれぞれの相談役としても活動出来ている。</p>	

鹿嶋 自己 評価	鹿嶋 外部 評価	グループホーム華蓮		
		自己評価	外部評価	
項目		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得に向け各研修への参加や通信教育受講の支援を行っている。又、勤務してから数年が経過している職員に対しては、基礎研修の再受講など振り返りの機会を設けている。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>セミナー開催に向けて交流する機会があり定期的な情報交換を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	鹿児島県 グループホーム華蓮		
		自己評価	外部評価	
項目		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で本人、家族、関係機関と面談し、本人の生活歴や現状をアセスメントしていき、本人のペースで徐々になじんで行けるように配慮しながら信頼関係を気付いていけるように支援している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただき、生活の流れ等について説明、得られた情報に基づいてサービス計画を作成、意見交換の出来る機会を設けるなど、関係作りにつとめている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、何が困っているかを気がついて時点で情報交換し、優先すべき支援を見極めスタッフ間で統一した対応に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場におかず、お互い助け合って生活するという関係作りに努め、生活面でのアドバイスをもらったりしながら支えあう関係を築いている。		

鹿児島県 自己評価	グループホーム華蓮 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況改善について家族の協力が重要である事を伝え、協力を得ながら共に本人を支える関係を築いていけるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に季節の衣装替えや郵便物の確認に帰り、近所の方との会話を楽しめる機会や場面を作っている。	病院の帰りに美容室や墓参りに行き、衣替えの時期は自宅へ帰り近所の方と会話を楽しんでいる。知人友人が来て髪を切ったり、編み物や縫物、時にはピアノを弾く利用者もいる。ボランティアの受け入れも頻繁で、これまでの人や場との関係を継続する支援となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声を掛け合い支えあう環境作りを大切にしながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話等での相談ごとに応じる体制を整えている。		

鹿児島県 自己評価	グループホーム華蓮 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中や家族や親近者の面会時の会話等で、その人を知ること、努め、言葉だけでなく表情等で好きなこと、したいこと、望んでいることなど一人一人の思いをくめるようにしている。	利用者がその人らしく暮らし続けるために、日々の表情や会話で思いを汲み取り、また目線の動きやしぐさで訴えを把握するなど注意をはらっている。困難な場合は家族からの情報を得たり、本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族との面会時、本人とのコミュニケーションの中、本人を取り巻く関係機関から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、水分、食事摂取量、排泄状況等を勤務にあたるスタッフが全員把握できるようにしている。おおまかな日課はあるがその日の状態で個人のペースを大切に支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の朝礼のなかで必要なことをスタッフ同士で話し合い個人の変化や思いを共有している。家族の面会時、本人を交えた談笑の中思いをくみとれる機会にしている。上記のようなことをモニタリングや介護計画にいかせるように取り組んでいる。	本人の意向や家族のアイデアをもとに、変化に応じて主治医の指示を受け、話し合いが持たれている。アセスメントとモニタリングを繰り返し、設定期間ごとの見直しはもとより現状に即した介護計画である。職員は咳きひとつの違いで体調の変化を見極めた例もあり、嗜好品を含めた個別のケアを職員全員で共有し実践している。	

鹿嶋 自己評価	外部評価	グループホーム華蓮		自己評価		外部評価	
		項目		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		毎日の利用者の様子を支援日誌に記録し、更に介護経過としてまとめモニタリングに生かせるようにしている。毎日のミーティングでも情報交換や話しあいを行い、状況の変化等が早めに気付けるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		入院や病状の変化時などは本人、家族、スタッフの意見を聞きながらケアプランの立て直しを行っている。又ケアプランの期間に応じてケアプランの立て直しをしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		地域の小学校との交流、中学生の職場体験の受け入れなどを通しその後も地域の子供たちが自由に出入りしお互いに存在価値を高められるようなレクリエーションを行っている。慰問活動も多い。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		できるだけ、入居前に受診されていたかかりつけ医の受診を継続していけるよう支援している。	定期受診は本人のなじみのかかりつけ医を、家族の協力のもと受診してもらい緊急の協力医療機関も連携が取れている。認知症などの専門医や歯科は往診にきてもらい家族と結果報告もしている。ヒヤリハットも詳細に気づきノートに記され、申送り時に情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	鹿児島県 グループホーム華蓮		自己評価		外部評価	
		項目		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内にも7人の看護師が在籍しており情報交換を行いながら支援している。また、気になる点などについては訪問医に相談し利用者が適切な受診、看護が受けられるように支援している。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際しては、施設側の情報提供書を作成し、入院生活がスムーズにおくれるよう支援している。入院後の状態を見極めながら退院後の受け入れを行った利用者も現在4名いる。				
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「出来る事、出来ない事」等の説明を行い、利用者、ご家族の思いに沿ったケアができるよう関係機関の協力をいただきながら支援している。	重度化や終末期のあり方について入所時に本人や家族にホームが対応し得る最大のケアについて十分に説明をしている。家族の希望に添った自宅への訪問介護を考えたり、重度になっても往診で自宅療養が出来るようになり医療機関との連携もとれている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行われる上級救命講習などを定期的に受講しており、実践力を見につけている。				

鹿嶋 自己評価	鹿嶋 外部評価	グループホーム華蓮 項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年に2回行っている。消防団や地域の協力をもらいながら利用者が安全に避難できるように努めている。暴風シャッターやスプリンクラー等も設置済みである。	消防署、消防団の協力のもと避難訓練を行い特に夜間想定では地域住民に協力をもらっている。前日は近隣に一軒づつ説明に回り、消防設備の方、町内会長立会いのもと行っている。緊急連絡網の体制も取れており備蓄もある。また地域住民を含めた防犯の外灯も設置するなど、利用者の安全対策に配慮が見られる。		

鹿児島県 自己評価	グループホーム華蓮 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活状況を知り、その人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて、配慮している。	一人ひとりの人格を尊重し、呼び慣れた名前でも呼んだり、新人の職員は接遇の勉強会でさりげない言葉かけや対応を習得している。個人情報も管理者で管理され、職員は誇りやプライバシーの確保を常に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	部屋の片付けや、掃除など一緒に行いながら、必要な物を選んだり、買い物等の計画を立てたり、自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者の意志確認を行い体調や希望に合わせた暮らしを支援している。起床時間・食事等、個々に合わせた時間で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	できるだけ、入居前に利用していた美容室・理容室を利用して頂けるよう支援し、入浴の準備など好みの洋服を自分で選んでいただくよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・片付け等、利用者のADLに応じた役割分担を行いながら、食事が楽しみなものであるよう支援している。	職員が交代で作る食事は、散歩を兼ねて自社農園の野菜で調理したり、利用者の嗜好に合わせている。保存食や行事食は利用者の得意分野であり、楽しみながら手伝っている。家族を交えた外食や、おやつのお買物など、利用者が生き生きと生活できる支援である。	

自己評価	外部評価	鹿児島県 グループホーム華蓮		
		自己評価	外部評価	
項目		実施状況	実施状況	
			次のステップに向けて期待したい内容	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量や水分摂取量については個々に記録し、職員全員が把握できるようにしており、利用者の状況や習慣に応じた支援をしている。</p>	
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声かけ・介助を行い、ポリデントによる義歯の消毒も定期的に行っている。</p>	
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>起立時の尿漏れ等も多く、9人中6人が尿取りやりハビリパンツを使用している。時間的に声かけ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの排泄チェック表でパターンを確認し誘導することで、リハビリパンツから布パンツに、また尿とりパットも外れた利用者もいる。排便をスムーズにするため、コアやサツマイモを取り入れたり、利用者の失敗を無くす自立に向けた支援になっている。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便の状況チェックを行い、飲み物や食材選びなど個々に応じた支援を行っている。</p>	

鹿嶋 自己評価	外部評価	グループホーム華蓮		自己評価		外部評価		
		項目		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している		介助を要する人、そうでない人など、個々に合った入浴スタイルを取っている。	外出を好む利用者は足浴や半身浴、ゆっくり入浴希望の利用者、また入浴を拒む利用者はタイミングをみて声かけをしたり、利用者の希望に添った入浴スタイルである。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		入浴・食事・排泄等声かけを必要とされる時間もあるが、基本的には自室に帰られる時間も自由に選んで過ごしておられる。	/		/	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		処方箋を各利用者のカルテにファイルしてあり、常時確認できるようになっている。又、薬の変更等があった場合は、申し送り簿で情報を得られるようになっている。	/		/	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		日々の生活の中で、食事の後片付けや洗濯物干しなど、それぞれの役割をもって生活されている。	/		/	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		その日の一人一人の希望に沿って散歩や買い物に出かけたり家族とともに美容室や墓参りに出かけられる方もある。喫茶や外食など日常的に支援を行っている。	職員は車椅子でも利用できるレストランを調べたり、喫茶店が好きな利用者、家族と外食を楽しむ利用者など、個々の希望に添った支援に努めている。バラ園や桜見物は弁当を持参し、小遣いを管理している利用者もいる。日常的に外出支援がされている。			

鹿児島県 自己評価	グループホーム華蓮	自己評価		外部評価	
		項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>部屋で管理されている方もありますが、殆どはホーム側で預かり、生活に必要な物など、新聞の広告を見ながら買い物リストを作られ、職員と一緒に買い物に出かけておられる。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族の方から贈り物が届く事も多く、その都度お礼の電話をかけられたりしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、季節を感じられるような掲示物もあり、利用者がそれぞれに居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>	<p>玄関には季節の花と、家族や来訪者に明示した書類が置かれ、フロアは明るく広い。大きなソファもあり利用者は個々のスタイルで寛いでいる。浴室や脱衣所も広く、安全面を考慮して片付けられている。廊下や壁には利用者や職員の作品が掲示され居心地のよい共用空間づくりである。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビを見る空間、ラジオを聞く空間など、それぞれ気の合う利用者同士ですごされている。</p>		

鹿嶋 自己評価	鹿嶋 外部評価	グループホーム華蓮	
		自己評価	外部評価
項目		実施状況	実施状況
		次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものの持ち込み、身体状況や認知症の周辺症状等に合わせて配慮した家具・手すりの設置など、利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>利用者が居心地よく過せるように、使い慣れた家具やものを持ち込み、身体状況を考慮して設置されている。窓からは明るい日差しが入り込み、近隣の行き交う人が見え自宅と環境のギャップを感じさせない造りと工夫がされている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>椅子等はキャスター付きの物、そうでない物など利用者のADLに応じて使い分けている。居室を間違えたりされる利用者に関しては、部屋の入り口に花やネームプレートなどを貼り、安心してホール移動ができるよう配慮している。</p>

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない